

勝林寺寺報

私と私のたたかい

子どもを育てるための基本の原理は、厳しさと優しさが、ほどよくバランスを保ちつつ、うまく続けられていくという事です。それはまた、父の厳格と母の慈愛とが、うまく交流しつつ、子どもに伝わっていくことでもあります。子どもは、その厳しさによって、自己自身をよく人格的に独立させていき、強い意志を育てていくのです。しかしまた、子どもは常に優しさが必要です。その暖かい優しさを、わが身いつぱいに受けることによって、さまざまの人々との交流の大切さを知り、また柔らかい心を育んでいくのです。

新しい心の皮がはがれていきます。私たちの家庭に鏡が必要であるように、私たちの生活には、もうひとつの人一人の心の姿を映す鏡がないから、仏壇の前に、ちゃんと座つて自分の心を見ないから、またしても自我が高ぶつて、家庭の中にゴタゴタがおきてくるのです。

私は、仏法を学び、お念佛を申して生きていくという事は、いつもいつも、仏法の鏡に自分の姿を映しながら、私ともう一人の私とが、厳しく闘つていくことだと思います。それは、仏法に育てられた新しい私と、生まれたままの、仏法にそむいて生きる、古い私との闘いです。私自身は、またしても新しい私が古い私に負けてしまいますが、私は、いつそう仏法を学び、仏壇の鏡を大切にしながら、いよいよ新しい私を育てていきたいと念じることです。

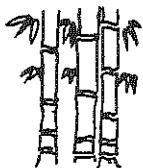


賀 正

勝林寺	住職	坊守	後継住職	前住職
西池匡紹	西池美幸	西池深音	西池哲俊	西池希里
西池入海	西池匡紹	勝林寺監査	勝林寺	勝林寺 総代会
一日(日)	四日(水)	但東方面 年始	六日(金)	成人式
元且	(水)		(金)	
坪口 報恩講	坪口 報恩講	和屋・出石A 報恩講	坪口 報恩講	勝林寺 代議員会
中島武志 永井孝一郎 (栗)	中嶋英樹 稲葉保夫	田中重雄 (小) 永井正人	田中重雄 永井正人	勝林寺 仏壯役員会
二〇日(火)	二二日(木)	二二日(水)	二三日(金)	二四日(土)
中嶋英樹 稲葉保夫	足立幸夫 田中重雄	稻葉保夫 (小)	出石C 報恩講	斎藤庄治 橫山廣義
二九日(月)	二六日(月)	二五日(日)	一五日(日)	二九日(木)
坂本智 山田博文				
一七日(火)	一六日(月)	一七日(火)	一七日(火)	一七日(火)
横山廣義 足立幸夫	斎藤庄治 橫山廣義	斎藤庄治 橫山廣義	斎藤庄治 橫山廣義	斎藤庄治 橫山廣義
二三日(日)	二三日(日)	二三日(日)	二三日(日)	二三日(日)
大石佐代子 岡野多鶴子 川見祐枝 清水尚子 岩上加代子				
二七日(金)	二六日(木)	二七日(金)	二七日(金)	二七日(金)
みのりを聞く会	みのりを聞く会	みのりを聞く会	みのりを聞く会	みのりを聞く会
勝林寺 仏壯役員会				

敬称略

雪



大変な大雪になりました。あなたは、夜の雪道を一人で歩いたことがありますか。一面白一色。高いところも低いところも見分けがつきません。まっすぐな道か曲がっているのかそれもわかりません。まるびながらころびながら懸命に歩いても、いつたいどれだけ歩いたのか、どの方向に進んだのかさえ分からなくなってしまいます。

「欲ふかき 己（おの）がこころと 降る雪は 積もるにつれて 道をわする」

飽くことのない我欲貪欲のために目さえ聞かなくなつて、ころびつまるびつ、もがきもがいて懸命に生きてきたつもりでも、結局何のためにどれだけの道を歩いてきたのかさえも、分からずじまいで終わってしまう私の一生。悲しいことであります。

「解脱（げだつ）の光輪（きわもなし）」

（われらが悪業煩惱を、阿弥陀の御光にて碎くという事なり）お念佛の中から輝いてくる如来さまのお光は、我欲と貪欲に空しく終わるうとする私を、うち碎いてくださる「さとりの光」雪の降りつむ今朝、お仏壇の前に座つて、如来さまのお光にお会いしようではありませんか。

「一の大事」



昔、元気盛んな若い人が、偉いお坊さんになろうと思い立ちました。いよいよ今日からそのお勉強を始めようとしたとき、ふと考えました。「までよ、お坊さんになる勉強をはじめるのはいいが、もし何年か先、功成つて、偉いお坊さんになつたとする。すると必ず、私の家にお参

りください、お説教をしてください」とあちこちから招待があるに違いない。その時はきっと馬でお迎えがあるはずだ。「はい、参りましょ！」

法語カレンダー (HPより一部抜粋) 仏恩ふかく ももいつ

「仏に弥陀を 念ずべー

りください、お説教をしてください」とあちこちから招待があるに違いない。その時はきっと馬でお迎えがあるはずだ。「はい、参りましょ！」

から招待があるに違いない。その時はきっと馬

で乗ったまではいいが、五、六歩進まぬうちに、ドウと落馬してしまったのではさまたならぬ。それならば、どうでも先ず、何より先に乗馬のけいこをしておかねばなるまい」

そこでこの人、何年間かは乗馬の稽古に専念しました。そして、どんな荒馬でも乗りこなせました。そして、どんな荒馬でも乗りこなせました。

ところが、また考えました。

「偉いお坊さんになつて、あちこち招待を受け

て、お説教のあとのお斎（おとき）の宴席で、カラオケなど所望されたらどうしよう。その時

の彼はまた、それから何年間か早歌（はやうた）

という当時の流行歌の練習に励みました。馬に

はさつそと乗れるようになりました。カラオ

ケも自信をもって歌えるようになりました。し

かし、彼の一生は「それにてやみにけり」

子どものためにあれもしておかねば、明日の

ためにこれも片づけておかねば、あれもこれも、

目先鼻先の仕事の処理に追いかれている私た

ちの日々暮らしです。どれも放つてはおけない大

事ではあります。しかし、「それにてやみにけり」

になつたのでは、何のために人に生まれてきた

のかわかりません。あまた為さねばならぬ仕事

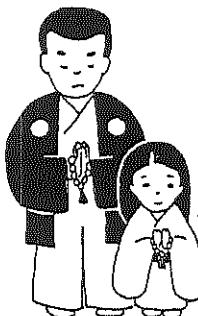
のうちでも、「一の大事」は何かと見定めなさい

よと教えてくださいます。

さて、この私の「一の大事」とは何であります

でしょうか。

（前住職テレホン法話第一集より引用）



ながらも胸躍る一人暮らしを始めました。携帯を落としたり財布を置き忘れたり、失敗もたくさんありました。いい出会いに支えられ、充実の一年でした。

表紙の「和讀をすべて示せば、次の通りです。弘誓のちからをかぶらずは いつれのときにか娑婆をいでん 仏恩ふかくおもひつつ つねに 弥陀を念ずべし』【註釈版聖典】五九三頁）

「弘誓」とは、阿弥陀さまがすべての者一人ひとりに対し、万徳を込めて「われにまかせよ、必ず救う」と願われる広大なる誓願を言います。

この願いを受け入れた者は皆、必ず迎える死を機縁として、この娑婆を出で光り輝く浄土へ生まれていくというのです。

そして、「仏恩ふかくおもひつつ」とあります。この「恩」という字は、「因」と「心」からなっていますね。「因」は、ふとんに眠る赤ちゃんを表していると言われます。すやすやと安心して眠るというのは多くの条件や支えがあつて、初めてあります。そのことに「心」を向けた時に生じる心情を、「恩」と言うのでしょうか。

思い返せば、昔は「念佛なんて……」と思つていた方も、いつの間にか、お念佛するようになります。私自身、不思議なほどに変わつた一人ですが、はつきりしていることは、それは自分で勝手に変わつたのではなく、そうなります。そう育つてくださった方がおられたということがあります。そう言いますが、皆さんは周りにおられた懐かしい方々が次々と脳裏に浮かんでくるでしょう。親鸞聖人は、そうしたさまざまな縁を通して、その大本で、いつも私にはたらきかけ、お念佛するようにいざなつておられたのは阿弥陀さまですよ、と教えてくださいました。そう知られた者は、「つねに弥陀を念ずべし」とあるように、恩を感じながらお念佛を申します日々に生きていきます。

井上 見淳

どすん

新年号の「どすん」は、2016勝林寺七大ニュースでスタートします。

第七位 入海 大学生活スタート

運よく、希望の大学に合格し、不安

ながらも胸躍る一人暮らしを始めました。携帯を落としたり財布を置き忘れたり、失敗もたくさんありました。いい出会いに支えられ、充実の一年でした。

第六位 希里 趣味の写真がヒートアップ！ 一年間に三十回以上撮影に行きました（本人談）アカペラにそそぐパワーも衰え知らず・・・お勉強は大丈夫でしょうか？（母親談）

第五位 若院（深音）烟づくりで社会貢献！ 繙ぎ、枝豆、トウモロコシ、サツマイモ、大根を栽培し、大阪の職場の皆さんにお届けし、大

変喜んでいただきました。

第四位 前住職 デイサービスデビュー！ お医者さんからの強い勧めもあり、七月からシカバレーのデイサービス通うようになり、と三回利用し、以前より元気になりました。

第三位 坊守 念願の歯の矯正始める

ずっとしたかったけどできなかつた歯の矯正をこの歳で始めました。今は多少不自由ですが、見る見るうちにきれいになつてきます。仕事を辞めると決めた時より、得度をすると決めた時より勇気と決断力が必要でした（笑）

第二位 住職 念願の鳥骨鷄の飼育始める

これまでずっとしたかったけどできなかつたこと。後押ししてくださる方があつてこそ実現でした。五ヶ月がたち、大きくなりました。

十一月初旬からは卵を産み始めました。益々目

が離せません。

第一位 伝灯奉告法要の寄付、全戸から集まる

勝林寺門徒の皆様の温かい理解と協力